全国植樹祭について

資料２

○目的

国土緑化運動の中心的な行事として、国民の森林に対する愛情を培う

○歴史

昭和25年から開催、第1回開催テーマ「荒れた国土に緑の晴れ着を」

第1～20回「植樹行事並びに国土緑化大会」

第21回福島県開催を契機に「全国植樹祭」

○特徴

主催は開催県と（公社）国土緑化推進機構

毎年「行幸啓」がある

昭和４５年 福島県で開催された「第２１回全国植樹祭」

昭和45年5月19日 (テーマ「後継者の森」、参加者22,300人)

現在の全国植樹祭会場(猪苗代町)

公の施設「昭和の森」として県が管理

自然観察を楽しむ子どもたち(平成25年7月)

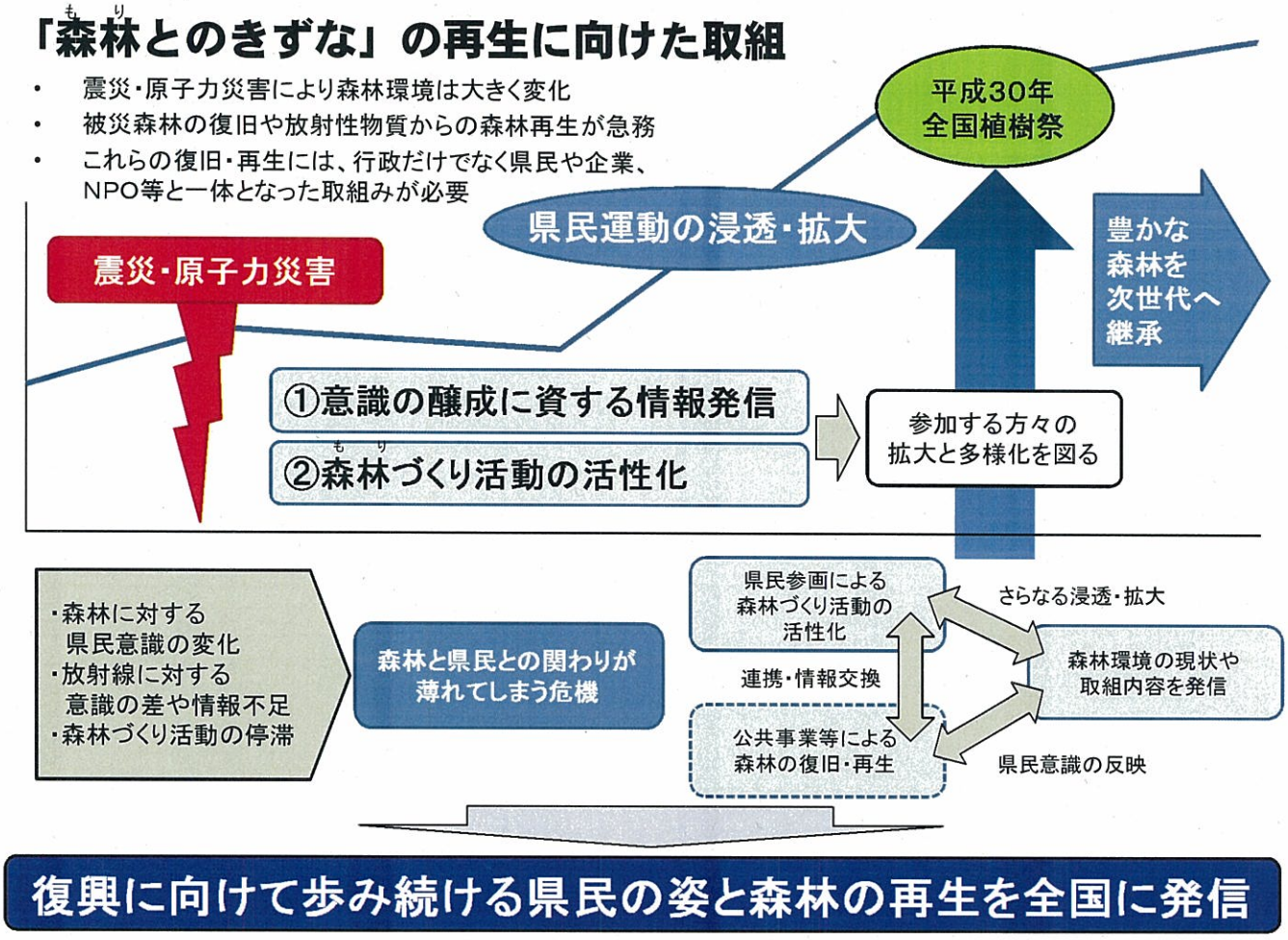
招致の背景(1)

○震災・原発事故

平成23年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、地震に伴う巨大津波が浜通り沿岸を襲った。
また、津波に伴い引き起こされた福島第一原子力発電所事故により、大量の放射性物質が放出され、多くの県民が避難を余儀なくされている。

○森林(もり)づくり活動への影響

震災における津波や原発事故による放射性物質の影響を受けた森林は、県民から「近づいてはいけない場所」とイメージされるようになり、森林(もり)内での森林(もり)づくり活動や森林環境学習の場としての利用が停滞した。



招致の背景(2)

○森林づくり活動推進についての提言

大震災と原発事故等により森林づくり活動や森林文化の継承が危機的状況となったことから、次世代が主役となる30年後の姿を念頭に、平成25年12月、森林づくり検討委員会が県に森林づくり活動推進についての提言を行った。

○ふくしま新生プラン(福島県総合計画)

「全国規模の復興イベントの開催に関する取組」

県民の心の支えとなることや復興に力強く歩み続ける県民の姿を全国に発信するとともに、緑豊かな県土を再生し、豊かな森林を守り育て、次の世代に引き継いでいくため、全国植樹祭を招致する。

近年の開催状況と今後の予定

開催年	大会回数	開催地
H22	**第61回**	**神奈川県（南足柄市、秦野市）**
H23	**第62回**	**和歌山県（田辺市）**
H24	**第63回**	**山口県（山口市）**
H25	**第64回**	**鳥取県（西伯郡南部町）**
H26	第65回	新潟県（長岡市）
H27	第66回	石川県（小松市）
H28	第67回	長野県
H29	第68回	富山県（内定）
H30	第69回	福島県（招致中）

各県、工夫を凝らした「県民参加運動」を展開し、開催前から開催気運の醸成を図っている。

会場全景

参加者数
7，000人
・招待者
4,770人
・スタッフ・出演者
2,230人

第64回全国植樹祭ロゴ

「とっとり花回廊」
（鳥取県立フラワーパーク）

シンボルマーク「トッキーノ」

植樹会場

とっとり花回廊いやしの森（西伯郡伯耆町）

○　約4，500本を植樹。

イヌシデ、エノキ、クリ、コナラなど四季の彩りを感じられる森や多様な生き物が生息する森等を造成するための樹種を選択。

式典会場

お野立所・レイアウト

お野立所

天皇皇后両陛下の御座所を設ける全国植樹祭を象徴する施設

式典会場レイアウト

正面中央にお野立所、両脇は特別招待者席を配置。
参加者は、木製ベンチを使用

おもてなし広場

郷土芸能の発表や郷土物産品の販売、湯茶接待等

歓迎レセプション（１日目）

・両陛下をお招きしての緑化関連コンクール入賞作品御覧
・両陛下をお迎えしての歓迎レセプション
・関連行事（全国林業後継者大会等）

歓迎レセプション

両陛下による作品御覧

植樹活動（２日目）

とっとり花回廊いやしの森（西伯郡伯耆町）

○　約4，500本を植樹。

イヌシデ、エノキ、クリ、コナラなど四季の彩りを感じられる森や多様な生き物が生息する森等を造成するための樹種を選択。

プロローグ（２日目）

オープニングなど

はじまりのメッセージ

出演者（子供）を中心とするパフォーマンス、「森は海の恋人」のメッセージを発信

創作劇「大山森話」

子どもと木の精との語らいを中心に、人間と木との共生を表現

記念式典

主催者挨拶

大会会長挨拶

公益社団法人国土緑化推進機構会長
(衆議院議長)

主催者挨拶

鳥取県知事

記念式典

各種表彰

表彰状授与

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画、緑化功労者、全日本学校関係緑化コンクール ほか

感謝状授与

大会テーマ、シンボルマークデザイン、シンボルマーク愛称、ポスター原画など

記念式典

お手植え、お手播き

お手植え

お手播き

みどりの少年団による介添え

記念式典

東日本大震災復興支援

とうほくとっとり森の里親プロジェクト

鳥取県が岩手、宮城、福島の被災3県からコナラやケヤキなどの広葉樹の種子を預かり、鳥取県内の小学生や苗木生産者が育て、寄贈するプロジェクト。

式典では、苗木の目録を鳥取県の美鳥（みどり）の大使から3県の代表者へ授与された。

記念式典

大会宣言・リレーセレモニー

大会宣言

公益社団法人国土緑化推進機構 理事長が大会宣言

リレーセレモニー

全国植樹祭のシンボル「木製の地球儀」が鳥取県の知事から、来年度開催の新潟県の知事へリレー

エピローグ

森のメッセージなど

招待者も参加できる音楽と演出により、未来に向けたメッセージを発信。

フィナーレは鳥型風船（生分解）の放天。

関連行事（１日目）

全国林業後継者大会(1)

○目的・歴史

全国の林業者が一堂に会し、森林づくりの重要性や林業の担い手としての役割について意見を交わすことを目的に、昭和４５年より、全国植樹祭の併催行事として開催されている。

○主催

全国林業研究グループ連絡協議会、開催県の林業研究グループ連絡協議会、開催県、（開催地市町村）。

○内容

有識者による基調講演、学校や林業団体による活動発表、パネルディスカッションなど

関連行事（１日目）

全国林業後継者大会(2)

基調講演

「これからの林業と担い手について」
京都大学フィールド科学教育研究センター准教授　長谷川　尚史　氏

パネルディスカッション

「林業後継者が林業を続けていくためには」
○コーディネーター
京都大学　長谷川准教授
○パネリスト
林業関係者4名

関連行事（２日目）

全国植樹祭応援イベント

テーマ　～「ここでも植樹祭！みどりと食の広場」～

JR米子駅前「だんだん広場」において、全国植樹祭のパブリックビューイング、苗木無料頒布会、食のテント村等を設置（主催：米子市観光協会）

招待者の宿泊・輸送業務

県内外からの招待者は「主催者手配の指定されたバス等」により式典会場へ移動

○県外招待者の宿泊は主催者が計画的に手配

○県外招待者には、式典終了後、林業や地域の魅力を発信する「視察コース」も設定

大型バスが車列をつくる駐車場（鳥取県）

全国植樹祭プレイベント

鳥取県の事例

第64回全国植樹祭プレ植樹祭

前年に式典・植樹会場となる「とっとり花回廊」において開催。
毎年県等で主催している「鳥取県植樹祭」をプレイベントとして位置付け。
代表植樹・播種のほか、緑の少年団による発表や山や木の形を音符に置き換え、式典音楽を作曲する採譜体験が行われた。

全国植樹祭プレイベント

福島県の計画

苗木づくりのイメージ

植樹活動のイメージ

5年前
・招致に向けた意識醸成
・うつくしま育樹祭でのＰＲ（実施済み）

4年前
・招致に向けた意識醸成
・内定イベント・ミニ植樹祭・苗木の育成

3年前
・テーマや実施地域に応じたプレイベントの開催
・苗木の育成

2年前
・県民参加の植樹祭の開催
・学校や職場などでの苗木の育成

1年前
・プレ植樹祭
・カウントダウンセレモニー
・全国へのＰＲ活動